寫眞週報

内閣情報部編輯

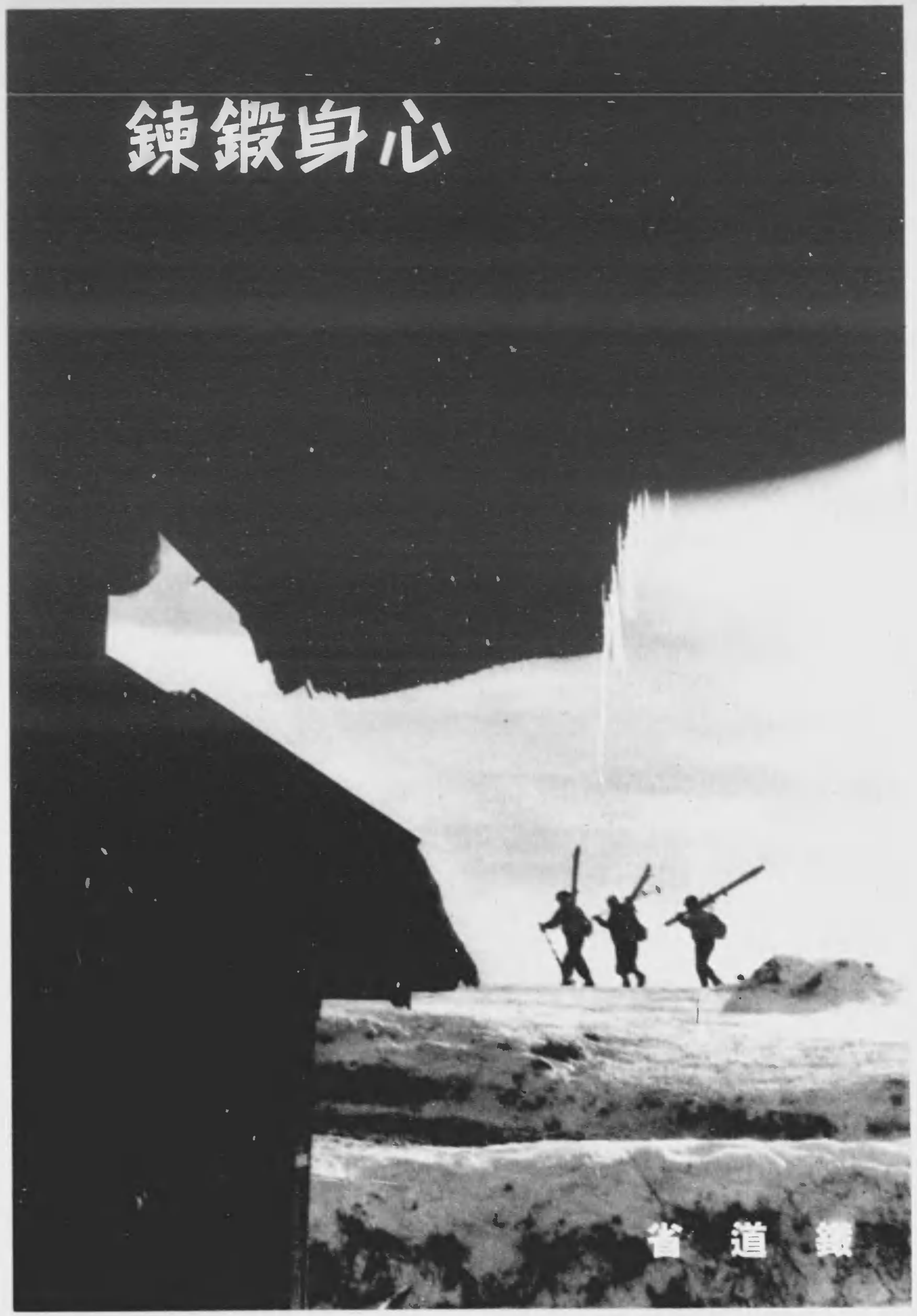
二月一日・第五十號・十セン

昭和十三年二月十六日　第三種郵便物認可　昭和十四年二月一日發行（每週一回水曜日發行）　第五十號

スペインから還る

漢口中山公園。一年あらたまつて、ひつそりしたこの公園にも、警の隊の兵隊さんの姿がちらほら見える。土色にごつた池の水もやがて澄むであらう。

撮影　内閣情報部



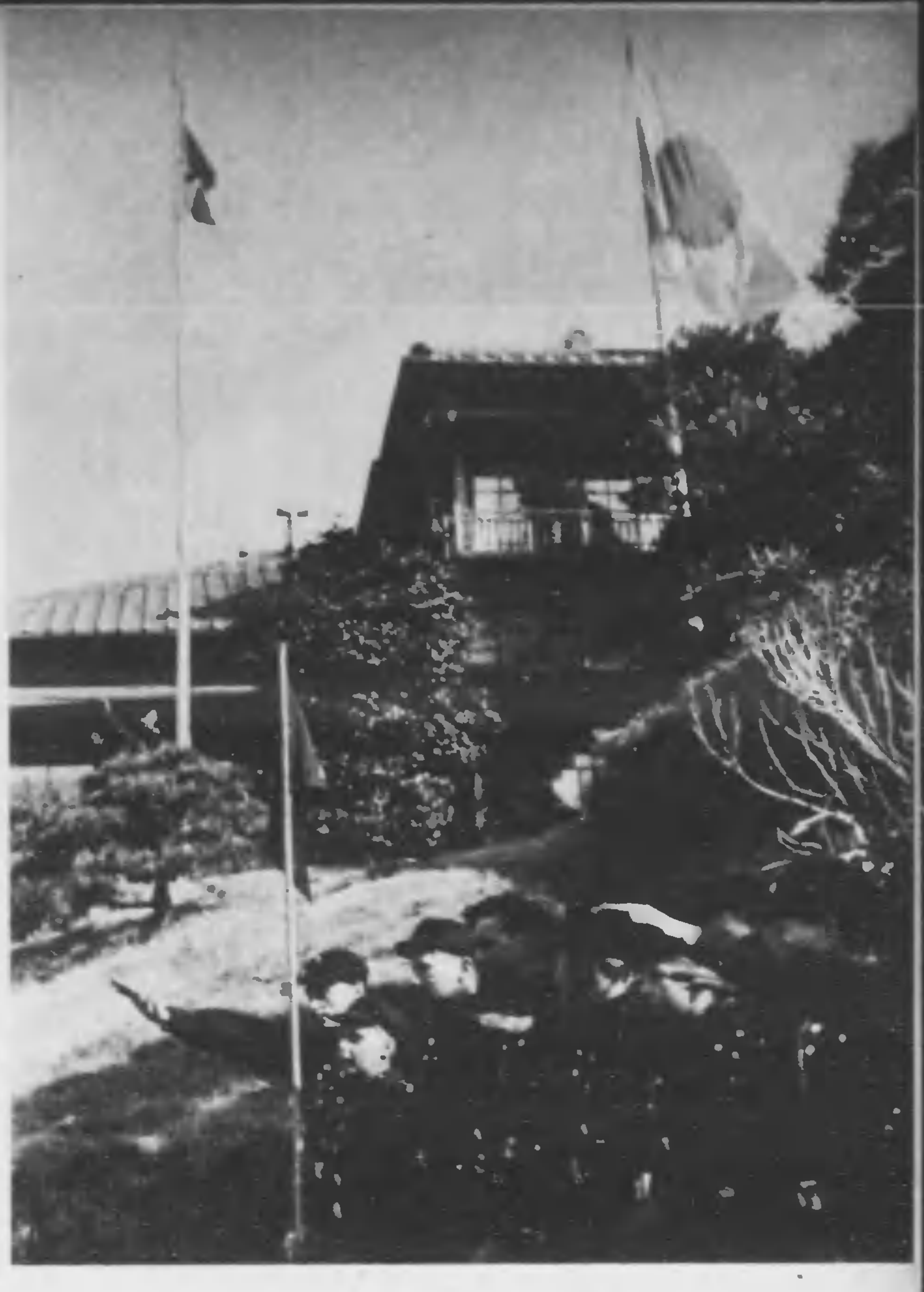
ヒットラー・ユーゲントの始業式

東京・大森

一月十五日、清朗に晴れわたつた日曜日、東京市大森の「ヒットラー・ユーゲントの家」で在京ヒットラー・ユーゲントの訓練始めの式が行はれた。集つた團員男女合はせて約四十名、團長ウェルネル・ディーツェ氏から今年の訓練スケジュールが發表され、並び翻へる日章旗及びハーゲンクロイツの旗の下今年も元氣で[illegible]をやる鍛錬しようと誓つた。

在京のヒットラー・ユーゲントは人數こそ少いが、どの少年もどの少女も皆健康に輝き、日獨親善の熱望に、精神修養に、體育鍛錬に、ナチス式の規律正しい生活を送つてゐる。日本は偉い國、日本は友の邦、その日本をよく學びつゝドイツ魂を養ひ、祖國の明日を背負つて立たうとする彼等の希望と抱負は大きい。

撮影　内閣情報部



⇧ 團長から今年の訓練スケジュールの發表、及び訓辭があつて後、團長の發聲で『ハイル・ヒットラー』を叫ぶ。翻へる日獨兩國旗の下一瞬嚴肅の氣があたりを覆ふ。

⇦ 少年たちの間には騎馬戰が始まつた。乘り手はがぶりと組みあひ、馬は遮二無二暴れ廻る。轉び落ちる、重なり落ちる。少年の額には汗が滲んでゐる。

⇩ 訓練始めの式がすむと手藝室には少女たちが集つて裁縫、刺繍等の賑やかな家事の時間が始まつた。隣りの部屋は唱歌の時間であらう。美しいメロディーが流れてくる。

⇦ 殊に體位向上はナチスの最も重要な國策の一つだ。將來の力強いナチス闘士たるべく、健康な母たり妻たるべく少年も少女も身體の鍛錬に餘念がない。

⇦ 『ヒットラー・ユーゲントの家』と並んで附近の『ドイツ學校』も彼等の修練所だ。日本語も勉強すれば弓道の稽古も、スポーツもここでやる。

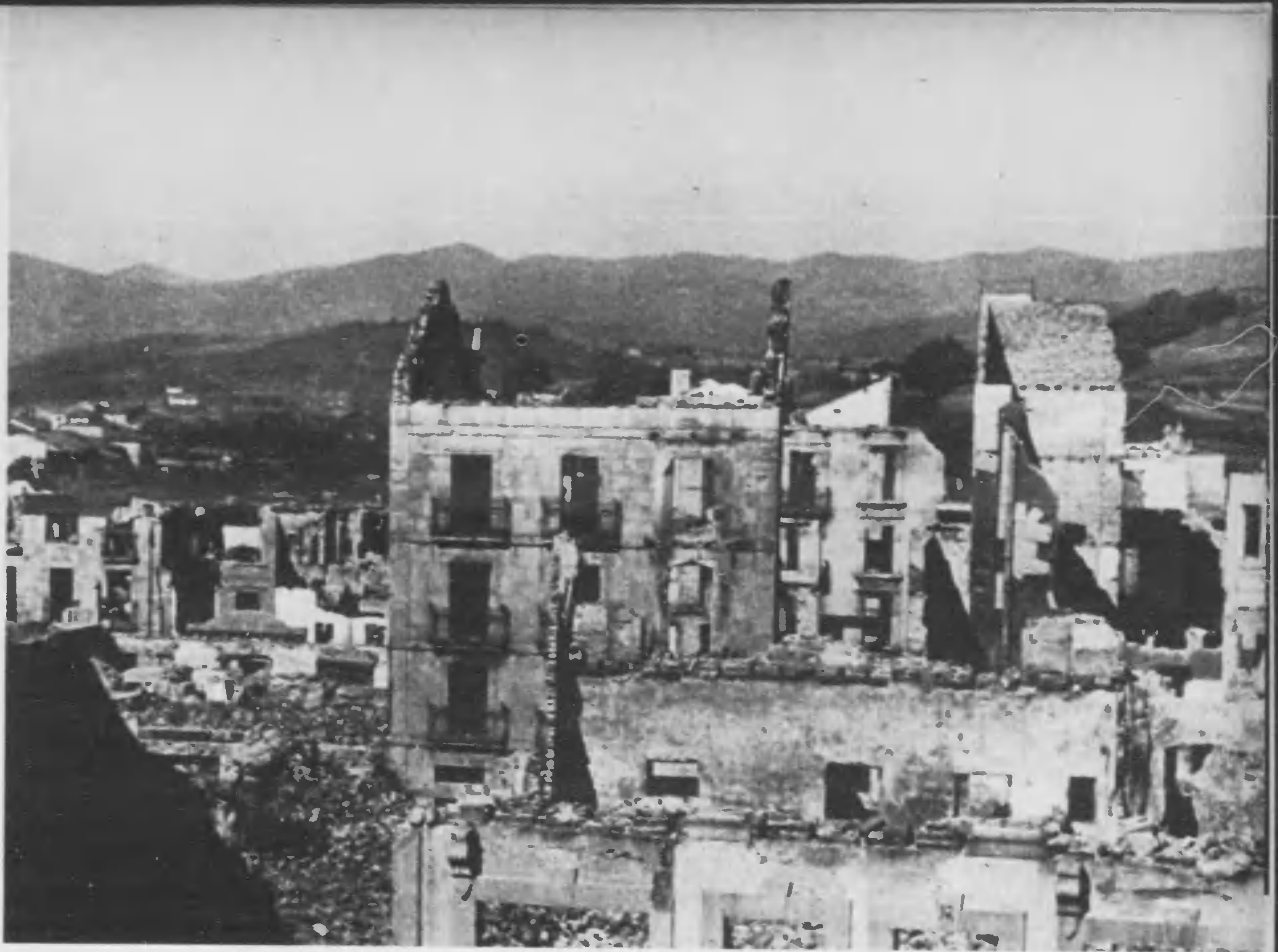
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スペインから還る

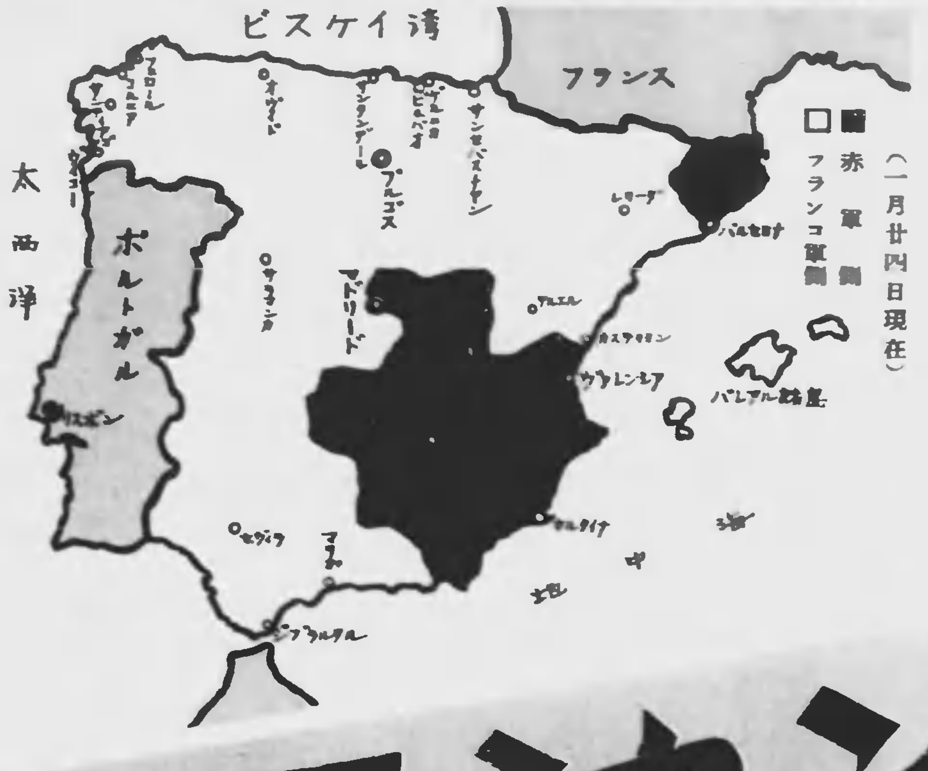
駐西代理公使　高岡禎一郎

撮影　高岡愛子

『フランコ軍遂に赤色首都バルセロナを占領す』と外電が報ずる時、最近スペインから歸朝したばかりの同國駐劄代理公使高岡禎一郎氏を煩はして防共の爲に奮鬪しつつあるフランコ軍側の消息を紹介しその意氣、銃後の模樣をうかゞふことにしよう。



バスク人發祥の地、ゲルニカの街も赤色人民戰線が總退却の時、めちやくちやに燒却破壞し去つて幾世紀の由緒もみな廢墟と化してしまつた赤色側はこれを外國にフランコ側が爆擊したとデマ放送をやつてゐる。



昨年の夏八月、ビスケイ灣にのぞんだ美くしい海港サンタンデールに約一ヶ月間の夏期大學が開催された。こゝはフランコ軍の占據地區内であるが、交戰中悠々とこのやうな文化施設が開かれたことはフランコ政府側の綽々たる餘裕を示すものとして獨伊兩國から派遣された特別聽講生は勿論、わが國からの留學生として聽講した特別聽講生もひとしく驚歎したものであつた。この夏期大學は文部大臣をはじめ、スペインの各方面における一流學者が出席講義し、内亂をよそに學の華を咲かせたのであつた。又、同地におなじ頃、學術進歩のための會議が約一週間開催せられ獨、伊、葡の各國から多數の出席者がありなか／＼眞摯にして盛大なる會議であつた。この一事をもつてしても、フランコ軍側は常にその文化を忘れず占據地域の擴大と並行して着々かゝる施設を進めてゆき、決してスペイン國内は爭亂の巷と化しきつてゐるのではない。

又、フランコ軍側がわが國に對する友情は大いなるものであつて、前述の學術會議の折、私ども夫妻の出席を感謝するために土木省大臣夫妻が大臣官舍で茶會を開いてくれたことがあつたが、この茶會には組合省大臣夫妻のほか土木大臣の親族一同が集つて、客間には日西兩國々旗が並揚され、又食卓にはまん中に赤い花を、周圍には白い花をかざつて、日本の國旗をかたどり心からの温情を示してくれたもので、その心づくしには感激させられたものであつた。

フランコ軍側があらゆる建設に努力をしてゐることは非常なもので、赤軍が退却した際、ダイナマイトで破壞していつた道路、鐵路、橋梁を懸命になつて再建中で、この模樣はフランコ政府の土木省の主催した『橋梁再建寫眞展覽會』で見ることが出來た。

サンタンデールの組合省を訪問した時、同大臣及び次官はかねてから私もよく知つておるのであつたが、私の訪問を非常によろこび、大臣自ら省内を案内說明して、その活動ぶりを見せてくれた。組合省は從來、スペインにはなかつた新省で、同省には組合局、勞働裁判及び協調事務局、社會局、移民局、統計局の分局があつて、勞働者の生活狀況、出征兵士の軍事援護、歸還兵の就職保障等に大活動をしておつた。これは從來の勞働組合にとつて代つて、フアランへの主張する國家によるナショナル・サンヂカリスト組織を採用したものといはれる。

西佛國境から西葡國境までを一線につらぬく約六七百キロにわたるドライヴウエイ――ルータ・デ・ゲラ（戰爭道路）――をドライヴしたが、この旅行は全く戰爭の不安の感じられない快適な旅であつた。その時はサンチヤゴ・デ・コム・ポステラの古い大學都市ではなやかな何百年來の器具や服裝を使用する宗教的祭典に列席した。ビルバオ附近では有名な良質鐵礦の產地を見學し、オヴイドを中心とするアストリアス地方では、赤軍暴擧の戰跡を見、又同市附近の豐富な石炭產地や『アニス』といふスペイン獨特の美味なりキユール工場をも參觀した。これらの產物はフランコ軍側の銃後を豐かにするばかりでなくさかんに輸出して同政府の外貨獲得に積極的に協力してゐた。又、アストリアス地方の海岸一帶は漁獲がすこぶる多く、漁網を見わたすかぎりの渚にほしてあつた。私どもが日本人であることを認めた一漁夫は『網は日本製が一番いゝですよ、お國からたくさん輸入してゐます』と說明し、私どもをよろこばせてくれた。えびや貝類等も豐富で、日本の網でとれるこれらの漁獲物を見た時、かるい鄕愁にひたつたものであつた。

又、農作物はフランコ軍側全土にわたり非常に豐 ←

難攻不落を誇つた赤色人民戰線側のトーチカ。ビルバオ郊外二十數キロにわたり、わざわざソ聯の技師の監督下につくられたこの所謂『鐵の帶』（アイアン・ベルト）も今はフランコ軍に擊破されていたづらに醜骸をさらしてゐる。

ドン・フランシス・フランコ將軍

ビスケイ灣を臨む民家。今では大砲の穴をあけられて住みやうもない。かつては人民戰線軍のたてこもつたあと。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スペインから還る

フウラ・デ・パンデーラ。フランコ軍側の青年が國軍入營の日、國旗に向つて接吻し忠誠を誓ふ嚴肅な宣誓式である。毎年各所で行はれるが、去年はサラマンカで各國代表外交團も臨席し市の廣場（プラーサ）で擧行された。

富で、小麥やとうもろこしが青々と畠に波うつてゐるのが隨所に見うけられた。フェロールといふ海軍要港をも見せてもらつたが、大規模な造船所があつてさかんに造艦中の様子であつた。同市はフランコ將軍の生地で、市の中央邊に生家がある。コルニャ、ヴイゴーはいづれもガリシヤ地方の要港で、外國船がさかんに出入し、輸出入が活潑に行はれてゐた。この地方ははなはだ風光明媚で、海岸の松林のたゞずまひなど、わが國の景色によく似たところである。

◇

フランコ將軍は一九三七年四月十九日附布告を以てフアランヘ・エスパニョーラ及トラディシオナリスタの二勢力を合併してフアランヘ・エスパニョーラ・トラディシオナリスタ・イ・デ・ソス・ホーンスなる一團體を組織し、一切の既成政黨又は政治團體を解散し、一國一黨的制度を樹立したが、總裁はフランコ將軍、書記長は農務大臣のライムンド・フエルナンド・クエスタ氏で、會員は約百萬を超えると謂はれ、政治を始め各般の活動の中心原動力を爲して居るが、婦人部首班はピラール・プリモ・デ・リヴエラ女史で、フアランヘ・エスパニョーラの創立者ホセ・アントニオ・プリモ・デ・リヴェラ氏（赤側に人質的に捕虜とせられて居たが、昨秋赤側により殺害されたことが確められた）の令妹に當る三十歲足らずの婦人である。このフアランヘ・フェミニナ（婦人部）は、各方面の公事に大活動中で例へば其の指揮する社會救濟部では、戰線に於ける傷病兵の見舞、慰問、看護、後方軍事病院の勤務、遺族孤兒等の扶養を行ひ（公開食堂で只で食事を採らせる等）、種々なる會合を催し物心總動員の激勵、寄附金の募集等目覺しい奮鬪努力振である。第一線の病院等は素より、フランコ軍の新占領地域等には眞先に乘り込んで、傷病兵の看護やら新占領地域內人民の衣食住供給やらを眞劍にやつてゐる。

◇

シャンペンこそフランスに一歩ゆづるが、ぶだう酒はスペインでもなか〳〵優秀なものが出來る。土崩れを防ぐため山腹をかためてつくつたぶだう畑には南歐の陽が一面さしてフランコ軍側の銃後を守り、巨額の輸出を助けてゐる。

一九三六年七月十八日、フランコ將軍は祖國を救ふため蹶起した。同將軍側ではブルゴスにカバネリアス將軍を主班とし、數名の軍人委員及び各行政部門に文官顧問を配する國防委員會なるものを組織し最初の政府を構成したが、同年九月廿九日附委員會布告をもつてフランコ將軍をスペイン元首に推戴し同年十月一日附フランコ將軍を首班とする新政府の完全な組織をみた。新政府は元首に直屬する總務部、軍事部、外交部、國家專門委員會及び總督からなり國家專門委員會は財政、司法、商工、補給、農務、勞働、文教、土木、交通の各行政部門委員會を有してゐた。

さらに、昨年一月卅日、國務及び國際關係等の複雜化にともなひ、同日附內閣成立に關する法律を公布し、外務、內務、國防、司法、大藏、文部、商工、治安、組合、土木、農務の十一省から成る內閣制度を確立し、翌日布告を以て全閣員の任命をみたが、閣員の大部分は若手の錚々たる第一流人物を網羅する強力內閣で、全國統一事業の軍事的鬪爭は勿論、政治の各般に亙つて有効適切な實蹟をあげつゝある。この強力內閣成立直後、即ち昨年二月二日政府は國民に對するメッセージの形式をもつて大要左の如き聲明を公布した、これによつてフランコ政府の政策、綱領を察知することが出來よう。

一、戰鬪員との協力

今回內閣制度に依る政府成立に當り、政府は陸海空軍に對し軍隊を構成する一切の將兵、義勇兵に對し感謝に滿ちた連帶觀念を表示する。戰爭に因り又戰爭中生れたる本政府の第一且主要の關心は、大勝利の決定的意思により結ばるゝ戰鬪員との精神的共通性を維持せんとするにある。

戰鬪員は政府の關心が先づ戰鬪員に向けらるゝことを確信せよ、又政府は戰爭により傷つける者、喪に服する者、哀傷に惱む者、赤軍の銃後にありて恐怖の戰線に生くる者、又未だ誤謬を悟らず敵の塹壕より我に敵對する者に對しても挨拶を送らんとする。

吾人は此等を塹壕より先づ我軍の強力を以て引き出し、次で吾人の持說の眞理及事業の眞實性を以て救はんとする。

鬪爭に從ふ一切の西班牙人、及び西本國を離れ吾人の大事業の前に我民族の矜恃を感ずる者に對し、全面的且決定的勝利を以て戰爭を終結せんことを第一に努力する政府の挨拶を送らんとする。

政府は此の第一義的且本質的問題に次ぎ、他の幾多の事業に其の關心を向ける。

二、國家に於けるナショナル・サンヂカリスト組織

吾人は回復の明朗なる途上にある勞働階級を有する。過去に於て仇敵なりし企業家、技術家及勞働者の三團體が國家生產の推進力たる爲、右勞働階級をして有用なる要素たらしむるやう組織に編入せしめねばならない。

フランコ軍側は小麥を豐富に產し銃後の食料問題を賄つてゐる。その小麥を牛がひつぱつてゆくのものどかなスペイン農村の風物だ人民戰線軍の方は食糧飢餓が非常に傳へられてゐるが、フランコ軍側は食糧ではちつとも困らない、小麥などもむしろ輸出してゐるくらゐだ。

三、新　聞　法

新聞中所謂「第四權力」及「思想の自由」の眞の意義を沒却し、之を濫用して平然と國民を毒しつゝあるものがある。西歐の眞理の爲に新聞の地位を高揚する手段たるべき新聞法を定むるであらう。

四、新市町村機構

政府の留意すべき他の問題は、善良なる行政機關及善良なる地方政府たらしめ得べき市町村新機構の組織であらう。本件は急速實行を要し、舊時の首長政治より離脫し、都市村落に健全にして眞正なる國民的意義を與ふるものである。

五、肅正及再建

西班牙全國民の精神的及物質的肅正運動を實行するを要する。右の爲には眞正の文化的及衞生的政策を極度に必要とする。右政策は醫師及教員により恐らく唯一の民族の頭腦及健康を毒せる一切の種子を芟除するものである。

⬅

極く典型的なスペインの漁師町、バスク地方のオンダロウア。こゝの漁師たちは橋の上にかけてあるやうな日本製の漁獲網を使つてゐる。（記事參照）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スペインから還る

スペイン北部の田舍、ガリシヤ地方。淳朴な農民がバスケットに玉子や野菜を入れて遠い道を市場まで賣りにゆく。この地方の人々はとうもろこしを常食にしてゐる。

政府の建設的革新精神は、言語の集合以上のものなることを如實に示す爲に山積せる廢墟を村落、寺院、橋梁に變化する。

此の國家的再建事業に對しては當然の留意が爲されねばならない。富を創造する土木事業は、赤化の狂暴が破壞せる一切のものを再建し、場末町若くは村落に於て今日生存の爲十分なる手段を有しない者の生活の標準を向上せしむる爲に開始せられなければならない。

六、官　公　吏

政府は行政上必須の分子なる官公吏に留意し、彼等に對し今日既に多くの者が値打ちし且全部の者が當然有すべき威嚴を與へるであらう。政府は右考慮の代償として官公吏に對し義務の履行を要求し、西班牙の最盛時に於けるが如く國家に奉仕人たることは名譽の表象なることを再現せしむるであらう。

七、商　業　政　策

通商政策に對しては最大の重要性が與へられる、赤化分子の反逆に依り金準備の支持を缺くに拘はらず、西國の讓渡し得ざる富源及吾人の不撓不屈の努力及勞働により確固として維持されて居る我貨幣の價値は、懸て此の通商政策に在る。

その爲財政問題に關しては我租税制度を嚴重且嚴格に維持する。又西國が優秀なる生活條件を維持し其の富力、資源の驚異的證左を世界に示しつゝある經濟問題に於ては、總ての者に對し祖國の再建の爲に必要なる犧牲的精神を抱かしめなければならない。

八、國　際　政　策

西國は世界に於ける優位再獲得を要求する。吾人の國際政策は平和的なるを希望するも、右平和は英雄的戰爭及比類なき歷史の最高の資格により、他國の最大の尊敬を得べく決意せる國民の威嚴と兩立するものでなければならない。右國際政策は國家利益を絕えず目標とし、且歐洲平和に寄與せんとする希望によるもので、露西亞の指導する共產主義の危險の前に於ける大なる試練時に、友邦の與へたる友誼に對し、右友邦を忘却せざる國民の主張するものである。亞米利加の同胞國との關係及同地に設定せる多數西國人集團の精神的物質的利益並に極東に於て西國の言語及文化を保持する者に對する特別の留意を爲すを至當とする。

九、眞　正　の　正　義

眞正の正義の政策を實行する此の神聖なる言辭は我戰鬪員の彼の三重の呼號（元「フアランヘ」の呼號で現在一般的に用ひらるゝ「統一せる西班牙、偉大なる西班牙、自由なる西班牙」を意味す）であり、今日正義を代表する政府が自己のものとする呼號に包含される。正義の政策は此の崇嚴なる使命を神聖にして弱志若くは專横と一致しないものたらしめる。此の正義の政策は群民煽動的乃至輕薄なる權威と異り、現政府の如く最も完全なる權威を有する政府のみが實現し得るのである。

十、農　業　政　策

農業政策も急速實行を要するものである。善良なる西班牙農民は世紀と共に西班牙の運命に忠實を盡し來つた。農業政策は農產物の再評價、耕作方法の完成、金融の國家的組織、及農地の一層良好且正當なる配合により其の品位を向上せしめ、人道的に生活する形式を田園に與へるものである。

ドイツの陸軍武官等とサラマンカのフウラ・デ・バンデーラを參觀する高岡代理公使。

十一、宗　教　精　神

西班牙民族の起源より之に附隨し其の歷史の一章毎に印刻されたる宗教的深厚なる意義及信仰を再確認することを要する。我祖國より其の根强きカトリツク及精神的信念を抹消せんとして能はざりし一切の反宗教立法を迅速且斷乎として改訂する。

十二、領土の再獲得要求

最後に政府として何等眞實の權能を有せざる赤化委員會（赤側を指す）を未だに相手とせむとする者に對し明白なる斷言を爲さんとする。右斷言は西國領土を抵當とすることに關し、既にフランコ元首により明白に表示されたものである。西國領土の一部分即ち絕對不滅の主權に對し實行し若くは實行されたる一切の讓渡は無効である。吾人より奪へる我領土の最後の寸地及一切の寶物の再獲得を要求する。

十三、元首に對する忠誠

政府は偉大なる事業に當面す。政府は一大決意及不撓の精神を以て即時之が實行に當るべく、沈默裡に此の偉大なる事業を開始せんとする。右の沈默開始前に唯數言を以て現實を破らんとする。即ち西國の救主なる元首に對する政府の決定的不斷の忠誠を明白に表示すると共に全國民に對し挨拶を送らんが爲である。

右は英雄の血を以て濡らされ、百勝の火煙により煤けたる次の言葉に外ならない。

西國萬歲！

スペインの民家。
カスタネットとギターに合せて哀愁の色濃い民謠が流れてくる、スペイン人はラテン系だがどこか東方の匂ひがする。

日章旗ひるがへるサン・セバスチヤンの日本公使館。
このかげには、公使館として適當な家が見つからないで困つてゐた高岡氏に同市の名家トバール侯が盟邦日本のためならと特に好意的に廣大な邸宅を提供してくれた、といふ美はしい挿話がある。

四年間戰禍のスペインに夫君と行をともにした高岡愛子夫人。涙ぐましいほど眞劍に公私兩面から日西親善につくされた夫人の功績も亦大きい。本誌掲載の寫眞はその大部分が夫人の撮影になる。寫眞はポルトガルとの國境附近にて

スペインから還る

バルセロナ港市

スペインは闘牛の國だ、然し、今ではフランコ軍側では傷病兵や遺族を護る社會事業の寄附金募集のために闘牛士は赤布をふつてゐる。

JANDILLA—DOMECQ—CONAC—DOME

ごく典型的なスペインの古城

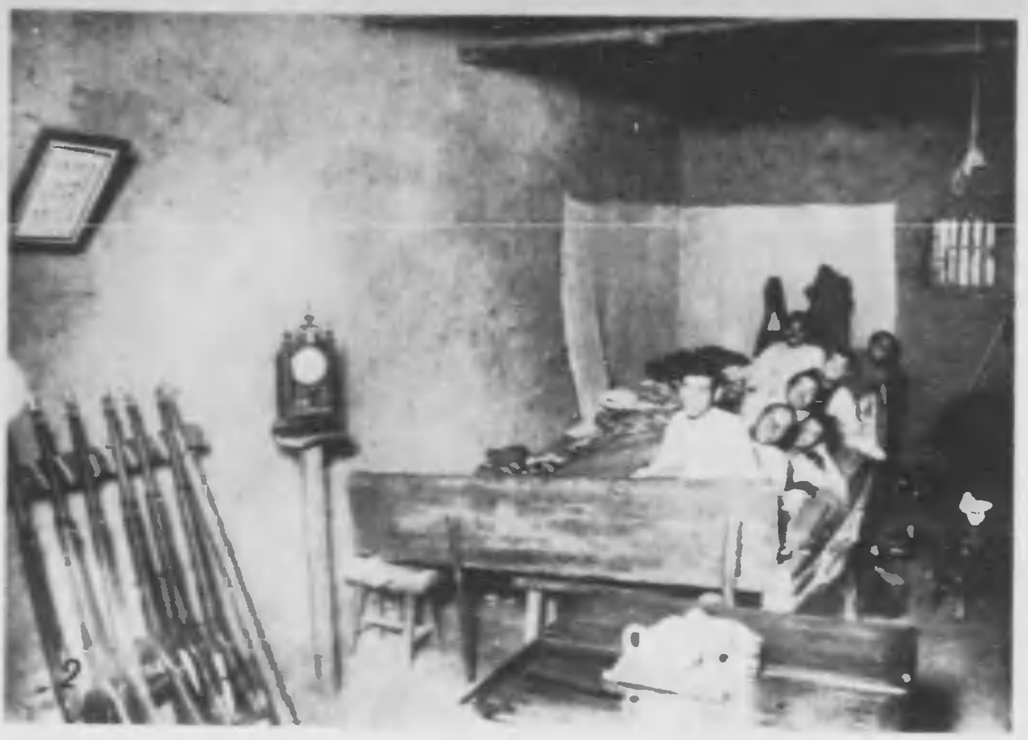
ルータ・チ・ゲラに沿つた風光明媚のコバドンガにあるカトリック祠。サンタ・マリア像に参詣する善男善女は絶えない。

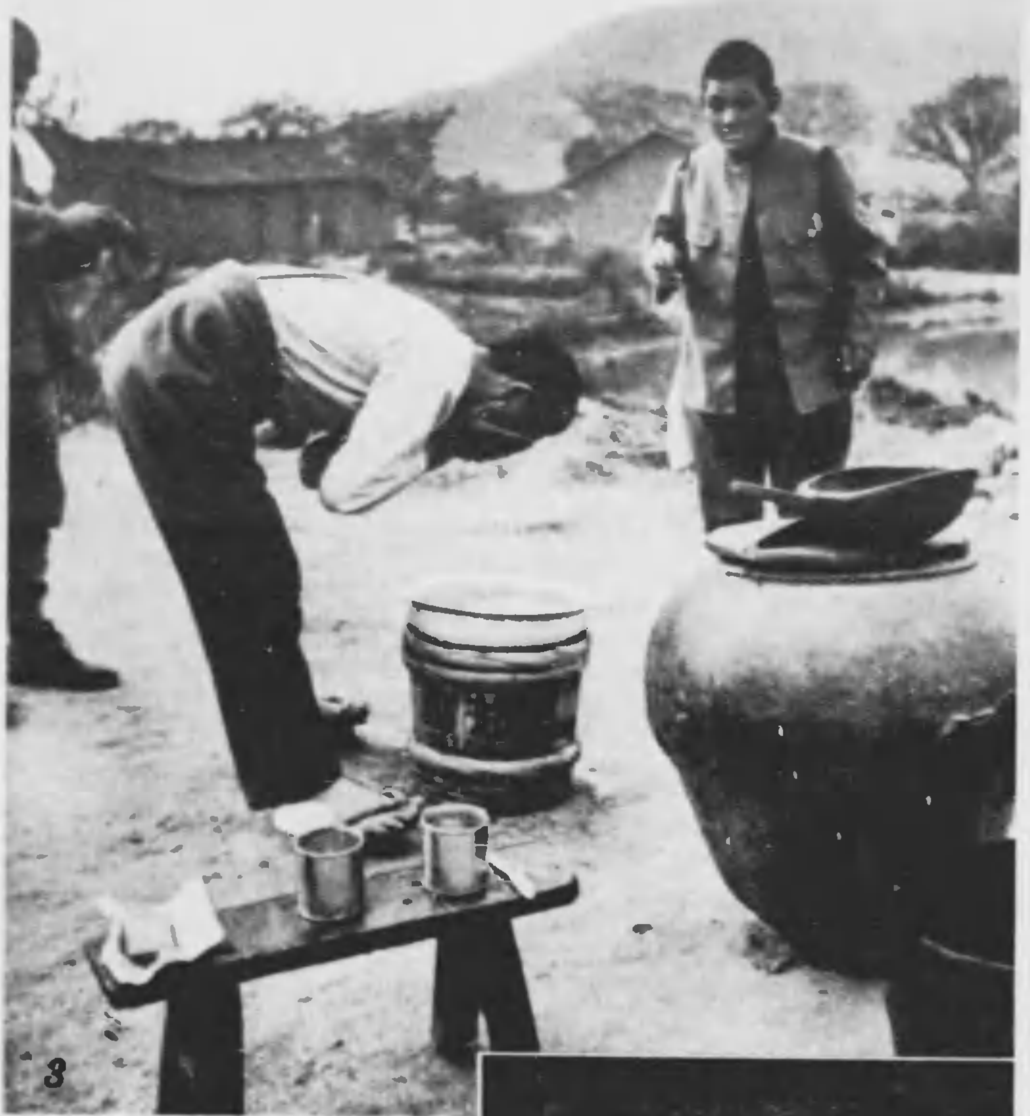
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

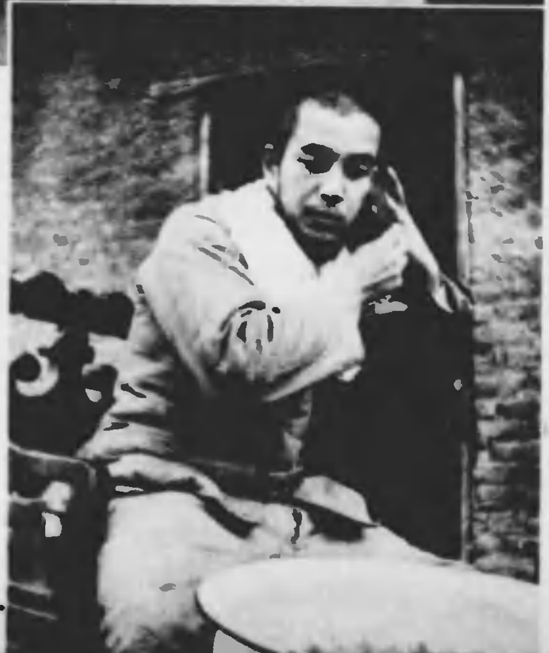
警備の一日

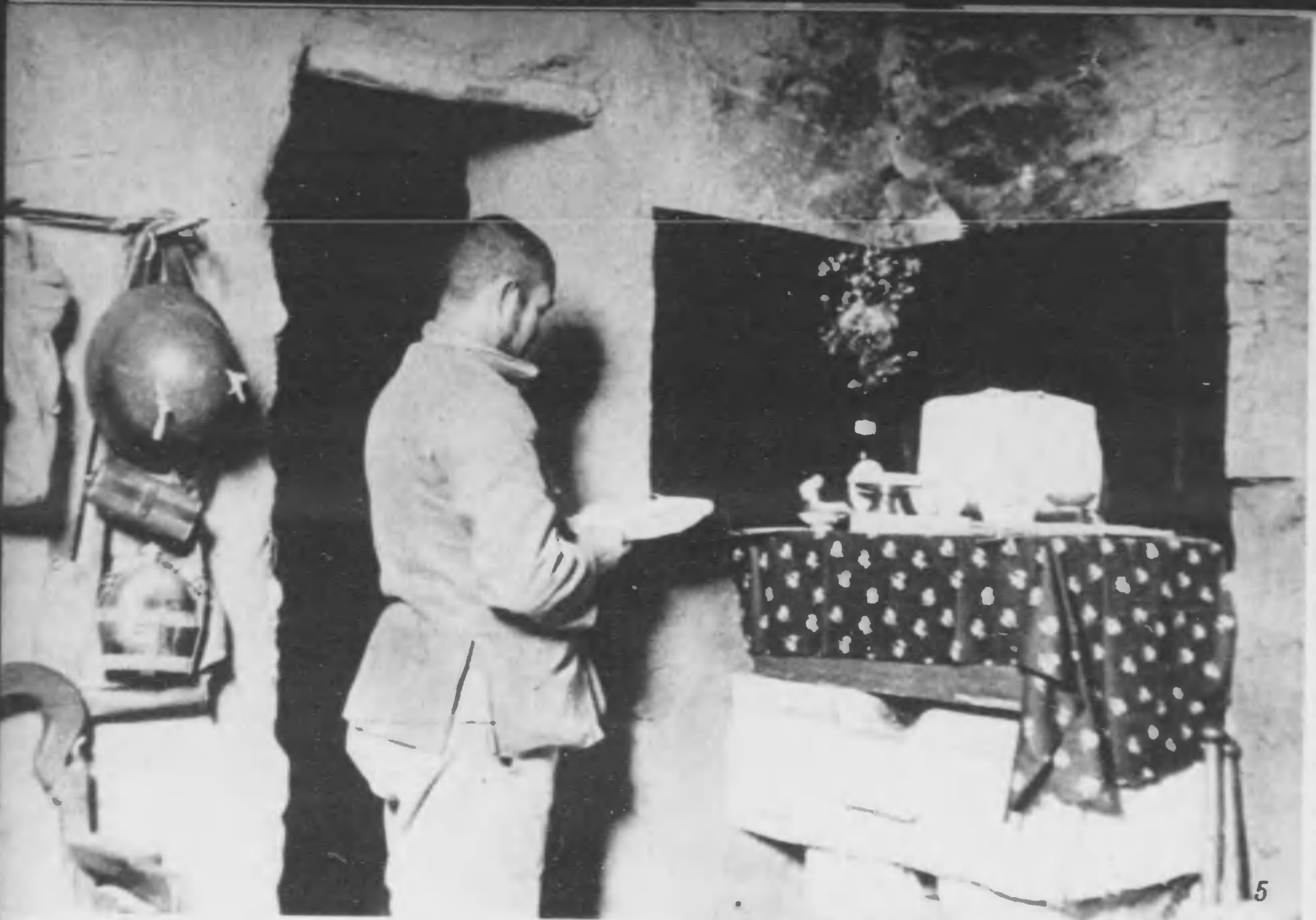
自分等の隊は昨年秋こゝ○○を激戦數日の後やうやく占領すると第一線部隊から離れて警備の任につくことになつた　いまゝて毎日のやうにやりごたへのある戦ひをつゞけてきたのに、急に自分等たけが後にのこされてゐるのはいささか物足らなかつたか、いさ任についてみるとどうして役不足をかこつ所てはないことか分つた　兵力は少いのに警備地區は滅法廣い　敵は得意の戦法遊撃戦術て襲つてくる　時には相當の兵力て機銃、迫撃砲等を揃へてやつてくることもある　寒さも相當なものた　雪はあまり降らないか、夜間なとはちつと歩哨に立つてゐると靴か地面に氷りついてしまふ程た

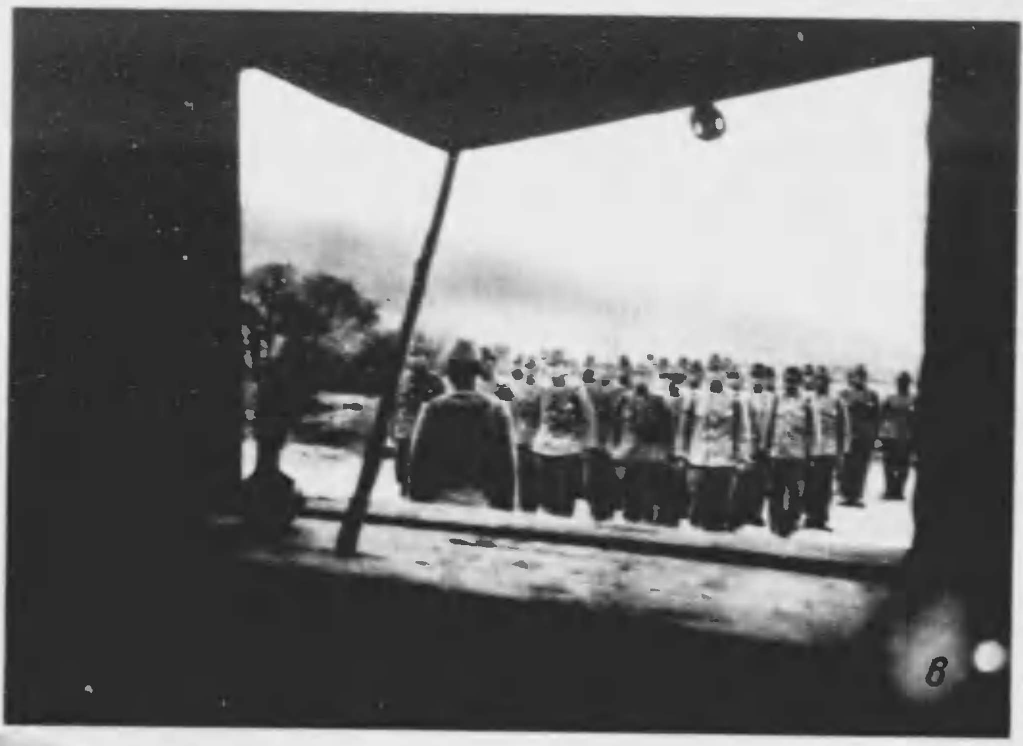
然し自分等は大いに元氣た　病人なとも一人もない　警備の餘暇かあれは、教練をやる　附近部落へ宣撫にも行く　占領地内の宣撫工作もやり出すと面白い　か何といつても敵襲の時ほと皆か元氣な顔をすることはない　敵の遊撃戦術なとは、この張り切つた自分等の元氣に押されて參つてしまふ

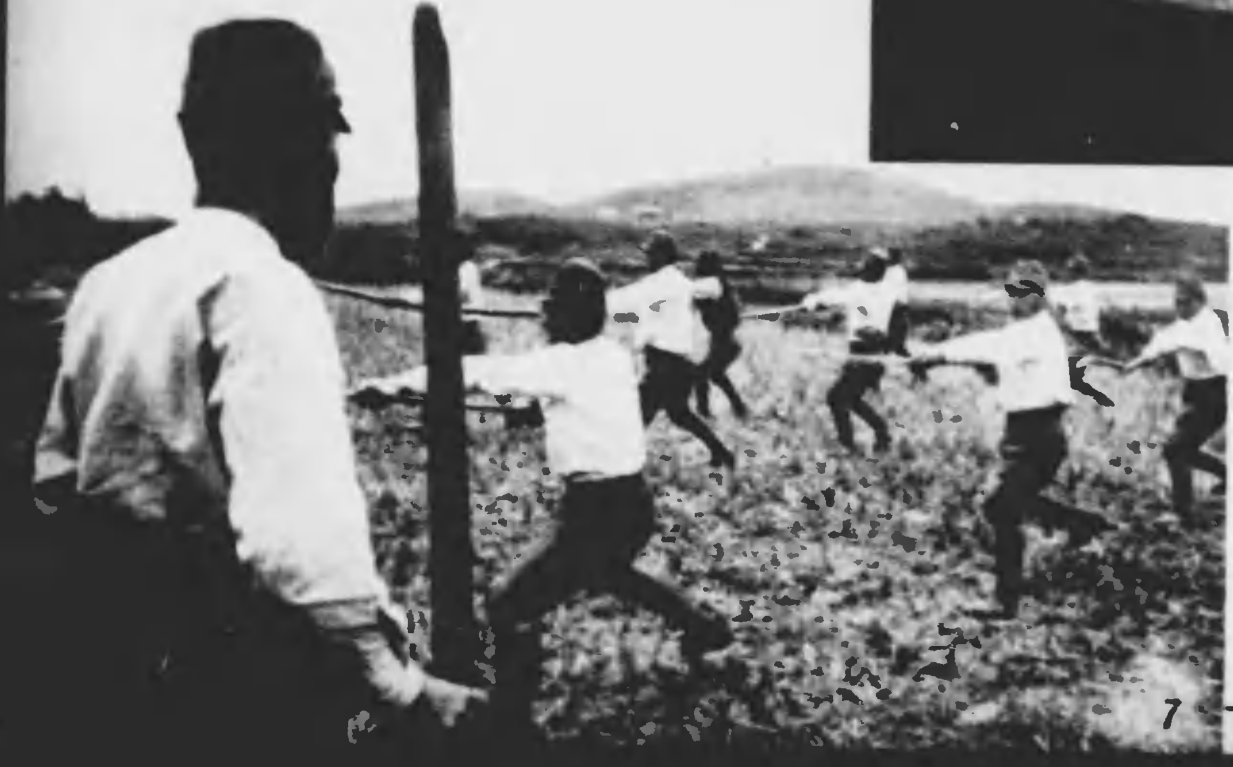












撮影
内閣情報部

1　未明の曠野に勇ましく鳴り響く起床ラッパで自分等の一日も始まるわけだが、警備當番の兵は凍てつく大地を踏んまへて不寝の歩哨に立ちつくしてゐる。

2　自分達御手製のダブルベッドでなくて七人ベッドだ。あまりいゝ部屋でもないが、置時計もあれば勅諭の額もかゝつてゐる。

3　附近のクリークから汲んできた水を瓶に入れておいてこれで顔を洗ひ、飯もたく。罐詰の空罐は石鹸入れだ。

4　鬚と兵隊はつきもの、かうして生えてみると一寸剃るのは惜しい。その惜しい鬚を吉田上等兵が剃つた。奥さんから剃刀がとゞいたんださうだ。

5　この間の戦闘で失つた戦友のところへ、父親から手紙が届いた。家のことなど縷々と記してある。早速その手紙を遺骨の前に供へたが、自分等も泣かされた。

6　朝の點呼につゞいて部隊長殿から毎日訓示がある。訓示の序でに内地からのニュースも聞かされる。

7　自分達は銘々手頃の棒を持つてゐる。部隊長殿のは一番太くて長い。こいつを揮つて毎日銃劍術式體操をやる。

アジア歴史資料セン
Japan Center for Asian Historical
http://www.jacar.go.jp/

警備の一日

8　部落民の宣撫には骨が折れた。今まで支那軍に騙されつゞけきた彼等は自分達をも中々信用しなかつたが、根氣よく努力した甲斐あつて今ではすつかり友達だ。

9　お天氣が良くて、暖かい日には日向ぼつこをしながら天狗將棋も始まる。驢馬が嘶いてゐる。池の氷も融けて、何處か春めいた陽に輝く。

10　風呂に入るのは何といつても樂しい。故郷の五右衛門風呂が思ひ出される。が、風呂など思ひも及ばぬ第一線の戰友には濟まない氣がする。

11　寒いときには火が何より御馳走。パチパチと景氣よく燃えあがる焚火をかこんで故郷のことを語り合ふ樂しみは格別だ。

12　張り切つた元氣のはけ口は又腕相撲ともなる。部屋には横綱から關脇、小結、前頭とちやんと番附が出來上つてゐる。

13　月が皎々と照つてゐる。犬の遠吠の中に大陸の夜は靜かに更けて行く。警備交代の報告に行くと、部隊長殿はまだ起きて陣中日誌を書いてゐられた。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

カメラの兵 下

☆火花

「河の向ふ側は、漢口まであと三里ださうだぜ」と言ふニュース。そんなことがあるかな、と思つたが、大冶の一線が破れてから、河の南が追撃戰になつたやうに、北の方だつてさうにちがひない。われ〳〵は地圖をひつぱりだしてみる。あと三里——われ〳〵の方は圖上最近距離をみつもつて武昌へ八里だ。實はもう同じく三里位にせまつてゐる筈なのだが、葛店鎭の北の要塞砲に撃たれて昨日の夕方から、前進できないでゐるのだ。重砲彈も野砲彈も飛んでくる。電氣裝置で六つ續けて飛びだし、高射砲も兼ねてゐると言ふのがやつてくる。しかし右翼が之に向つて、今はもう靜かになつた。「出發用意！」僕達は本部へ行つて樣子をうかゞつてゐたのだが、顔を見合せて微笑しあつた。「軍旗に敬禮！」「出發！」午後三時半である。何處まで進む豫定かは、まだわかつてゐない。葛店鎭あたりで宿營でゞもあらうか、あと八里なのだから武昌まで行つてしまへば好いと思ふ。「部隊は夜行軍をもつて武昌に向ひだね、明日の朝は入城する豫定」と誰か聞きだして來た。いよ〳〵命令が出たらしい。大休止で食事をとる。夕闇が刻々に濃度をまし、雨をはらんだ雲がたれこめてゐる。臺灣軍夫達の群で、ワッと言ふ歡聲が起るので、何かと思つてみれば、雞である。彼等は途中でそれぞれ雞をとらへて、持つて歩いてゐるのだが、今晩急進して入城ともなれば、もうそんなものはいらない。空にほうりあげられた雞が三四十羽、コケッコッコッコと鳴いて、勝手な方向に逃げてゆく。

僕達はリュックサックを檢査して、何かいらないものはないかと考へる。紙一枚の重量をも、節約したいのである。

平田部隊本部を中心に、いろんな隊がごつた返してゐる中を、痩身を馬にまたがり、髯をピンとはねた田中隊長が部下を引きつれ、僕達の大休止の前を行きすぎつゝ、聲をかけてくれる。あの髯をひねつたら大變だと言ふ隊長さんである。「大將が命令を受けてるぞ！」新聞記者にはピンと來るものがあつて、みんなサット立上る。「歩くぞ！」

六粁行軍か八粁行軍か、身體の重みを前にかけドッドッドッと急テンポに歩幅をひろげる。「萬難を排して武昌に突入し、突入の際はその時刻を本部に報告するんだつて話だ。」と、誰か聞きだしてくる。いよ〳〵この隊である。

雨がふり始めてまつたくの暗闇となり、足元を見て歩いても、何の役にも立たないから、前を歩く兵隊の頭をみて、それがわづかに空の薄明りに拔けだしてゐるのを賴りに、歩くより他はない。慣れると足元をすこしも見ないでも、安心してドッドッと歩ける。しかし時々氣になつて足元を見ると、軍靴が火花をチカッと飛ばすのが見える。一種の軍工路であるから、石をうづめた立派な道である。その石の頭に、軍靴の鐵がぶつかつて、火花が散るのである。美しい。見とれて、今度火の飛ぶのを待つて歩いてゐると、前がつかへて來てドンとぶつかり、あとから來る奴がまた僕にドンとぶつかる。

やつと十五分の小休止になる。濡れた道にゴロッとひつくりかへり、逆立ちするほどの苦勞をして腰の水筒から水を呑む。肩からはづしたりしてはゐられないのである。閉ぢたまぶたの上に、ぬかのやうな雨が冷たくおちてくる。しかし口をあけて見ても、その中へはあまり水らしいものもはいつてこない。そんなことをしてゐるうちに、ウトウトとねむりかけ、みんなの立ちあがるさわめきに、ハッと眼が醒めて歩きはじめる。

何度も休み、何度も歩き、速度だけは變らないで、ドッドッと進む。いつもの追撃のやうに、今度もまた退却する敵の一隊が、仲間の有力部隊とまちがつてまぎれこんできて、捕虜になる。彼等は途中の一軒家などに追ひこまれ、明日本隊の來るまで、何人かの兵が警備に其處へ殘る。時には左右の丘で、敵の呼びかけしてゐる聲が聞える。いくらかまとまつたのが居ると見ると、一ケ分隊位がそつちへ廻る。しかし銃聲はしない。必要があれば銃劍が物をいふ。特に僕等の隊は、夜になると「彈丸を拔け」と言ふ命令が出ると言ふ位で、銃劍ばかり使ふ。僕がひつくり返つて休んだところの後方一米のみぞにひそんでゐた敵の一人なども一人だけ休まないで立つてゐる分隊の警戒兵に見つけられて逃げだし、十米ばかり走つたばかりでやられてしまつた。

そろ〳〵參つてくる。一度休むと、今度歩き初めの十分間といふもの、足が痛くて泣きさうになる。まだやつと十二時まわつたばかりだから、先がながい。心臟は火のやうにあつくなつてゐるし、いよ〳〵まゐつてしまつたら、どうなることかと思ふ。急進してゐるのは僕等の隊だけで、あとは葛店の附近に宿營らしいから、いやが應でもこの隊と共に行くより他はない。しかし今日こそ武昌へ行く日なのだ。豆が潰れようとどうしようと、苦にならない。

豆戰車の一隊が、われ〳〵を追ひ越してゆく。皆默々と進軍してゆく。實際歩いてゐる兵隊が默りこくつてゐることは、驚くべきもので、郷土的な性格からさうなのだらうが、今何時であるかといふことも、あと武昌まで何里あるだらうかといふことも、まるで頭に浮んでこないかの如き、恐るべき兵隊である。

戰車の一隊に列を亂されて歩いてゐると、僕は棒のやうなもので、腰をグンとはねられた。びつくりして調べてみると、黒い大きなかたまりである。荷物を脊につんだ牛が、僕を邪魔がつて、角で押しのけたのである。闇の黒牛と言ふ奴だ。かと思ふと三匹ほど居る軍用犬の足を踏みつけ、キャーンと鳴かれる。よく嚙みつかないものだと感心してゐるうちに、また踏みつけて、もう一度鳴かれる。犬がほんとうに腹を立て、三度目の正直に嚙みつかれては大變だから、そのあたりには近よらないやうにする。

漢口の灯か武昌の灯か、それとも火事か火藥庫の爆發でゞもあらうか、遙かなる彼方にボッと明るく見える。このあたりは丘陵地帶で、絶好の防禦陣地だが、敵は退いてしまつて更に居ない。敵が如何にあはてゝ逃げたかは、道路の破壊されてゐないことでも知られる。葛店の近くには、馬をつけたまゝの重砲が、その馬のうち一二匹が砲彈にやられたばかりに、そのまゝ打ち捨てられ、あと四五匹の馬がぼんやりしてゐるのがあつた。あわてふためいて、我さきに逃げたありさまが想像されるが、支那の兵隊も哀れなものだ。

武漢らしい明りは、右に見え、左に見え、いくら歩いても近くならない。まるで狐につまれてゐるやうだ。しかしわれわれが武昌に進軍しつゝあることは眞實にちがひないし、あと何時間か歩けば夜が明ける前には武昌にはいるであらうことも確實だ。あと一里、あと半里にせまつてゐるのかも知れない。そんなことさへも考へられる。

闇を貫く光の帶が、突如としてわれ〳〵の隊をつらぬき、歩いてゐるひとり〳〵が、漆黒のバックに白く浮きあがつた。さつきわれ〳〵を追ひこした戰車が途中で待つてゐたのであるが、部隊の進軍の氣配に、友軍か否か疑つて、ヘッドライトを投じたのであらう。光の帶は何秒かで消え、また闇がすべてを占領する。われ〳〵が追ひつかうとすると、戰車は急にガタ〳〵と去り、音は聞えなくなつた。

トラックが十臺ばかり、あとから來て追ひこしてゆく。それには兵隊も乘つてゐた。こんなことなら何も無理しないで、便乘させてもらふのだつたと後悔されるが、しかし如何に展開するかわからない武昌入城の夜行軍に、はじめからトラックなどあてにすることはできない。道路の狀況がトラックを許さなかつたら最後である。いつも要領の好い僕達寫眞班も記者も、だから今晩はみな無理してゐる。無電などはあとの本部に殘り、先鋒隊だけ、全部で二十人ばかりである、一社で記者寫眞班、映畫班、連絡員と組になつてゐる。僕はひとりぼつちだから、同盟の高崎君と一緒に歩いてゐるのだが、それも何度かはぐれてしまひ、今度は朝日と一緒になり、讀賣と一緒になり、そしてまた同盟と一緒になる。みんな何度かの戰線で苦勞を共にしてきた仲間だ。

三叉路があつて、此處からあと一里だと言ふ准尉がある。しかしそれは支那さんの地圖だと見えて、それから一時間歩き、二時間歩き、右に左にまがり、時にはあともどりするやうにさへ思はれる。武漢のあかりは尙も遙かなる彼方にあり、雨はまだ降りやまない。

☆原稿

圖上八里、朝の五時まで十二時間歩いたから、十二里は歩いてゐる。武昌にはいり、汗が引いて寒い身體を焚火にあたゝめると、それらの勞苦も嘘のやうに忘れてしまつた。二ケ月の修練に耐え、勝利に輝く兵隊の顔が、氣持よささうにほてつてゐる。むくゐられたと言ふ氣持である。一番乘のよろこびである。

戰車隊が一番先にはいれた筈であるが、彼等は城内に敵なしと見ると、入城することをせず、街のはづれに列をとゝのへ、夜行軍を苦しんで來る歩兵隊を待ち、そのあとからはいつて來た。しかしトラック一二臺の工兵が歩兵より先にはいつてゐる。城門があればそれを爆破する筈の工兵と思はれるが、城壁も城門もなかつた。

だから或記者は工兵隊一番乘とニュースを送つた。しかし別の記者は歩兵隊の名を一番はじめに記した。彼等の間に論爭が起つたものだが、いづれも眞實である。入城戰なしにずる〳〵とはいつてしまつたものを、一番乘も何もあつたものではない。有りとすれば黎明以前にはいつたものは、すべて一番乘りである。しかし新聞社としては、何が一番乘とはつきりしないとニュースにならないのであらうか。

武漢に居た敵の大部隊が何處へ逃げたか、今やそれを急追の猛進を起してゐる部隊もある。武漢遂に陥ちた今日も、大別山系の奥ふかく、雨に打たれて食も乏しい部隊もある。すべては任務であるが、入城しない部隊の淋しさは、僕は徐州戰でしみ〳〵味はつた。今度は幸ひ一番乘を語れる立場に立つて、ほつとすることはできた。そしてこのニュースが内地へとゞいた時の、内地の喜びやうを思ふと眼頭が熱くなる。漢口の方は昨日の晩方一角突入だから、ひよつとしたら昨日の晩あたり提灯行列でもあつたか、武昌は十二時間遅れたが、すこししか殘念ではない。

漸く明るくなつたが、カメラマンは困つた。雨の夜明けであるから、暗くて一向氣分が出ない。殘敵掃蕩について行つても、これでくつきりした押への寫眞がとれたとは思へない。露出計を出してみると、僕の方は微粒子現像だからF3・5で三十分の一秒などと言ふ露出が出てくる。漸く戰車をつかまへ、いくらか入城戰らしい寫眞をとる。火事と戰車と揃へば、まづ見る人は滿足するであらう。あとは入城か萬歳かだが、城壁はなし、本隊はあとになるし大隊は暗いうちにはいつちまつてゐるし、蔣介石の武漢行營の前で萬歳をとる。F2の解放で六十分の一秒であるから、寫眞同好の方には暗さがわかつていたゞけると思ふ。入城をとりあへずそれだけまとめてしまふと問題は原稿輸送にうつる。

僕のは同盟のお世話になつて、連絡員が鄂城まで持つて歸り、そこで飛行艇がみつかればよし、駄目だつたら九江へ船でゆく他はない。讀賣も同じコース、朝日も連絡員を歸した筈だが、實はさうでなくて、その日の夕方飛行機で吊あげをやつた。斯うなれば朝日の絶對的勝利である。同盟は飛行機に關する無電連絡が惡かつたせいか、今回は役立たなかつた。同じ苦勞をした寫眞が輸送で拔かれるのは實に殘念だ。僕はルポルタージュをやつて技術的に殘念だと思つたことはあるが、ニュースはあまりやつてゐないので、この時はじめてその殘念さが身にしみた。殘念といふよりもくやしいといつた感じである。

原稿輸送では、忘れられない悲劇がある。徐州戰で、馬淵中佐の言葉を借りれば「天元の一石を投じた」と言ふ蒙城の激戰の寫眞と言ふから、五月八日ごろのものだが、途中で迷兒になつてしまひ、撮影した讀賣映畫班の泉君が、徐州へゆき、青島を廻つて上海へ歸り、更に九江攻略を終へて歸つた七月の末に、上海へついた。「僕が生命がけで撮つたものを」と、泉君は今は空しきその原稿をかき抱き、男泣きに泣いたと言ふのである。その話しぶりの愉快だつた同じ社の大島君は、今度の信陽で、砲彈の破片に腕をやられてしまつた。原稿を送つたあとは、だから心配せざるを得ない。今度も大別山部隊の寫眞原稿が、各社ひとまとめに事故で失はれたことがあつたさうだが、寫眞班としては、泣いても泣ききれぬ事件なのである。

しかし、不安でも何でも、入城はしたし、原稿は送つたし、われ〳〵は設營し、飯を食つて眠つた。夜通し雨に打たれて歩いた疲勞が、氣のゆるみの甚しいだけ、あとからあとからにじみ出てくる。醒めても起きる氣にはなれない。

「黄鶴西樓の月、長江萬里の情、春風三十度、空しく憶ふ武昌城。」竹の寢臺に寢そべつて、記者氏が手帳から李白を朗詠する。何か記事の文章でもひねつてゐるのである。「黄鶴西樓の雨ちやがな」と言つて、僕はゲラゲラといつまでも笑ひがとまらなかつた。

中支派遣軍報道部寫眞班

梅本左馬次

國民政府軍事委員會委員長
武漢行營

勞働者でもインテリでも、一朝事ある場合にはいつでも國家の求めに應じて働きうる準備としての『國民登錄』は、一月二十日全國四百八十四ヶ所の國營職業紹介所で一齊に登錄受付を開始した。

戰爭が起きた時とか、今度のやうな事變の場合國家の總力を擧げて目的を達するためには國民の力をその一人一人が持つ能力に應じて最も有効に動員しなければならない。從つて平素から特殊技能を持つ者の配置なり、技能程度なり、その人數なりを出來るだけ明確にしておくことが必要であつて、國家總動員法に基く今度の國民登錄はかうした見地から行はれることになつたのである。

職業能力の申告をする義務のある者は帝國内に居住する滿十六歳以上五十歳未滿の男子で、

1 厚生大臣の指定する職業（例へば機械技術者、土木技術者、旋盤工、採炭夫、木工、自動車運轉手、[illegible]手、メッキ手等）に三ヶ月以上從事してゐるもの

2 或は引續き一年以上從事したことがあり、今はそれを罷めてゐるが、罷めた日から滿五年たゝないもの

3 厚生大臣の指定する學校（例へば大學の工學部、高等工業學校、甲種工業學校等）で厚生大臣の指定する學科（例へば機械工學科、造兵學科等）を修めて、卒業したもの

4 厚生大臣の指定する技能者養成所（例へば商工省東京機械工養成所等）できまつた課程を修了したもの

5 厚生大臣の指定する檢定若くは試驗に合格したもの、免許をうけたもの（例へば自動車運轉者の免許證をもつもの等）である。

申告は要申告者となつた月の翌月末日までに申告票に記入してこれを國立職業紹介所に提出しなければならないが、本年二月末日が申告期間になつてゐるものは今回に限り三月末日までに申告すればよいことになつてゐる。

（詳細は「週報」第百十八號「國民登錄制」參照）

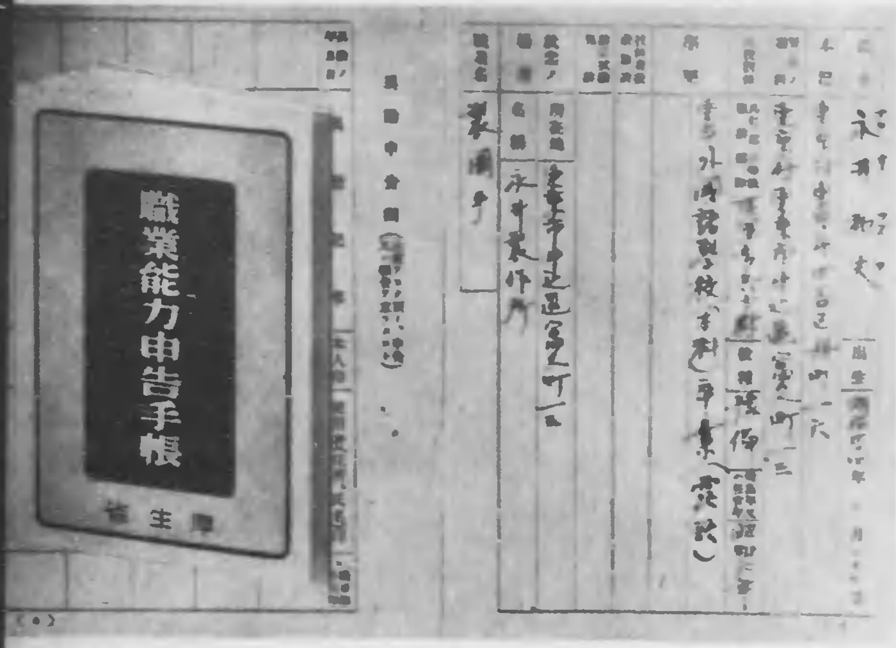
頭腦を腕を我らが祖國へ

撮影　望月文吾

⇨ 何しろ國民登錄は始めてのことだから誰でもまごつく。が、職業紹介所へ行つて問合せば、係りの人が何でもよく說明をしてくれる。いま何處かの技師らしい人も、職工らしい人も納得して申告票に記入を始めた。

國民登錄（能力申告）
東京職業紹介所
東京職業紹介所
國民登錄受付開

⇧ 眞劍な表情で記入してゐる青年がある。上と申告票の記入を覗くと、外國語學校蒙古語科卒業とあつた。



⇦ 申告票を提出すると、職業紹介所から『職業能力申告手帳』の交付をうける。特殊技能者だけに與へられる名譽ある手帳だ。（手帳の表と內容）

⇧ 申告は國立の職業紹介所へするわけだが厚生大臣の指定する職業に從事してゐるものは就業地を管轄する職業紹介所へ、その他のものは居住地を管轄する職業紹介所へすることになつてゐる。

⇦ 全國の要申告者は約五百萬人、東京だけでも五十萬人になる。全國の國立職業紹介所にはこれだけの人が連日申告に押寄せても大丈夫なやうにカードもカードケースも、受付係も、整理員も整備してある。申告の義務のある人は早速申告しようではないか。

明治紅茶

純國産代表的優良種

豊かに高雅な味と香り、澄明で繪のやうな色調

Meiji BLACK TEA
明治紅茶

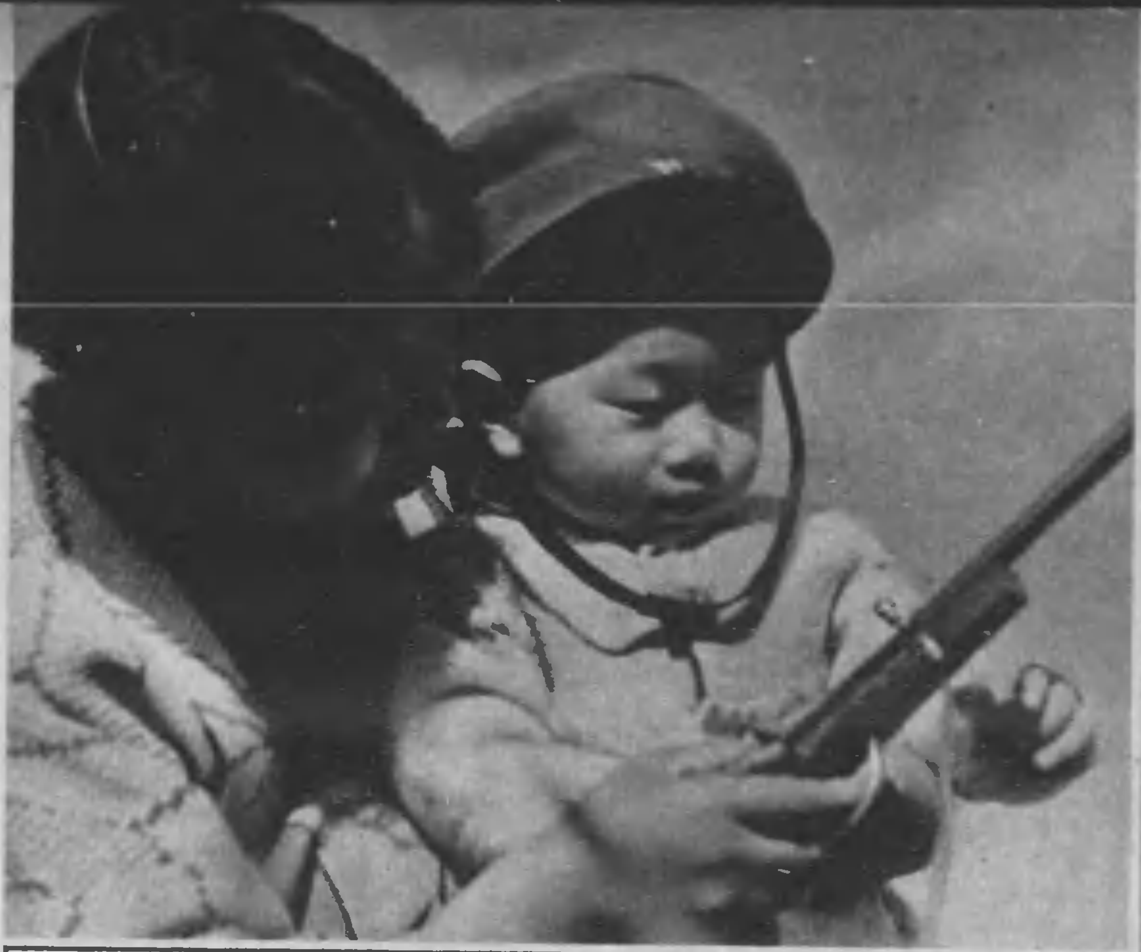
★日本は茶の國です。紅茶の世界的優良種が日本で作り得られても、決して不思議はない筈です。

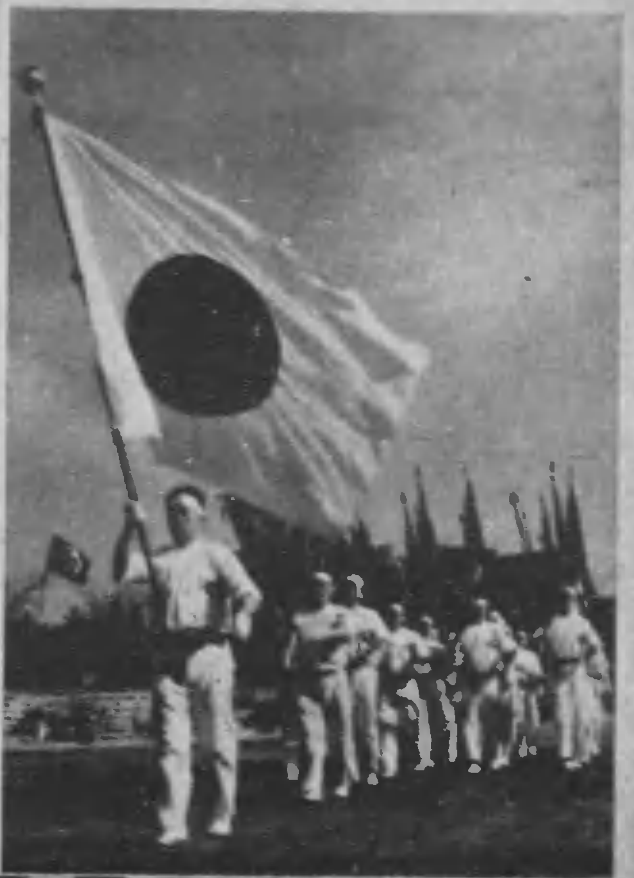
★もう既に、輸入の時代は過ぎ、國産最優良種明治紅茶が世界の一流品を凌駕する時代となりました。

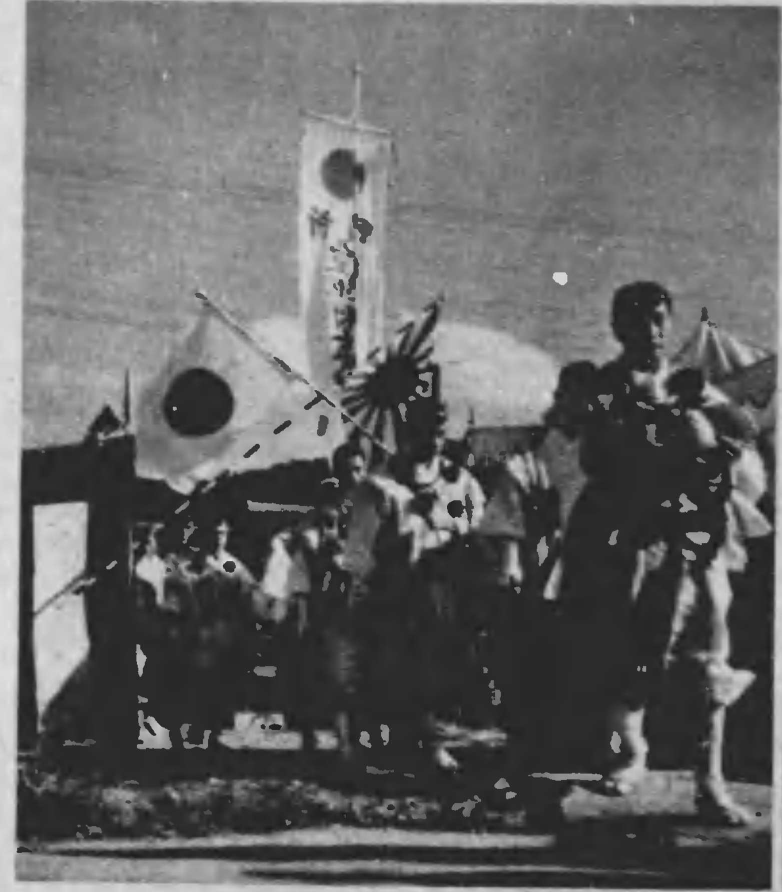
青罐（高級品）黄罐（普及品）
一封度・半封度・四分の一封度

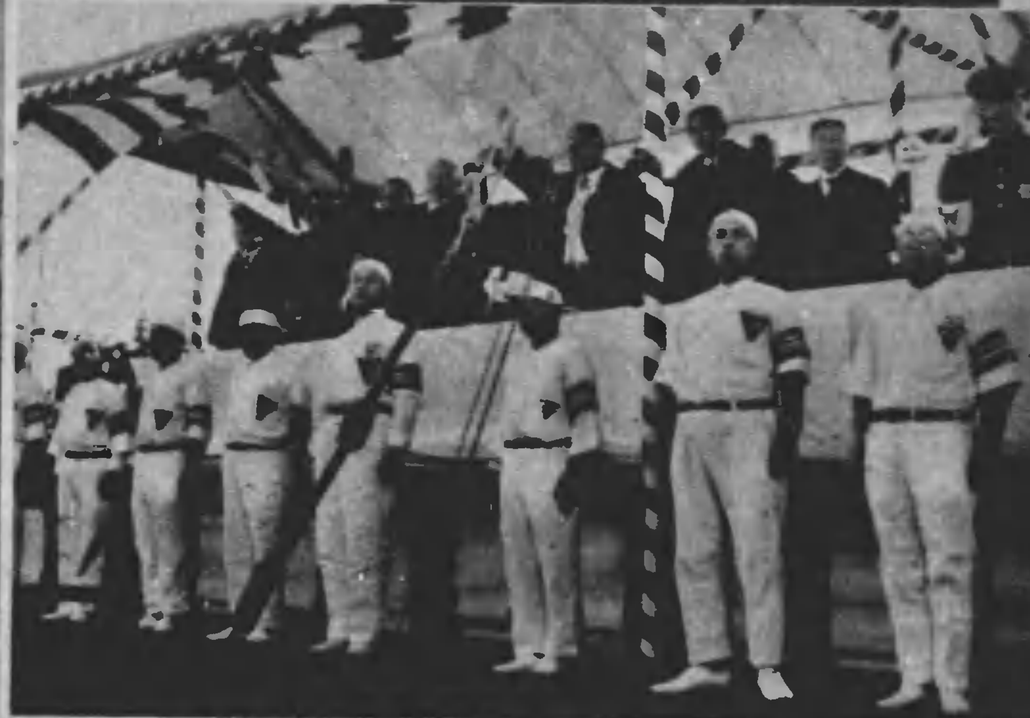
明治製菓株式會社

讀者のカメラ









お年玉は空氣銃

京都市伏見區　西島算

お父さんは應召、お母さんは坊やといつしよに健氣に銃後の家庭を護つてゐる。今年二つになつた坊やはお年玉にいたゞいたお父さんとおんなじ鐵砲のうち方を敎はつてゐます。⇦

[illegible]に元氣潑剌

東京市澁谷區　田邊實治

平沼首相を顧問とする財團法人修養團の日東支部は去る一月七日名古屋市鶴舞公園でドイツ、滿洲國兩大使、松井大將等の來賓をむかへて盛大な發會式を擧行し、ついで白のユニフォームも凛々しく日章旗を先頭に團員は街頭行進に移つた。⇨⇩

武運長久祈願の行者一行

京都市伏見區　西島算

寒の入りの京都で修業の行者會員は大陸の戰線に奮闘する皇軍將士の武運長久をほら貝の音も晴々と淸らかに祈願した⇩

讀者のカメラ應募規定

一、題材　國民精神總動員をテーマとした報道寫眞、一枚にても組寫眞にても可

二、印畫の大きさ　なるべくキャビネ判程度が好ましく、裏面に寫眞説明及び住所姓名明記のこと

三、締切　毎週火曜日

四、賞品　内閣情報部賞牌又は金五圓以上の賞金を呈す

五、應募作品は一切返戻せず、また掲載寫眞印畫の版權は當部に歸屬す

寫眞週報（[illegible]）

昭和十四年二月一日印刷發行

編輯者　内閣情報部
東京市麴町區永田町
内閣總理大臣官舍内

印刷者
發行者　内閣印刷局
東京市麴町區大手町

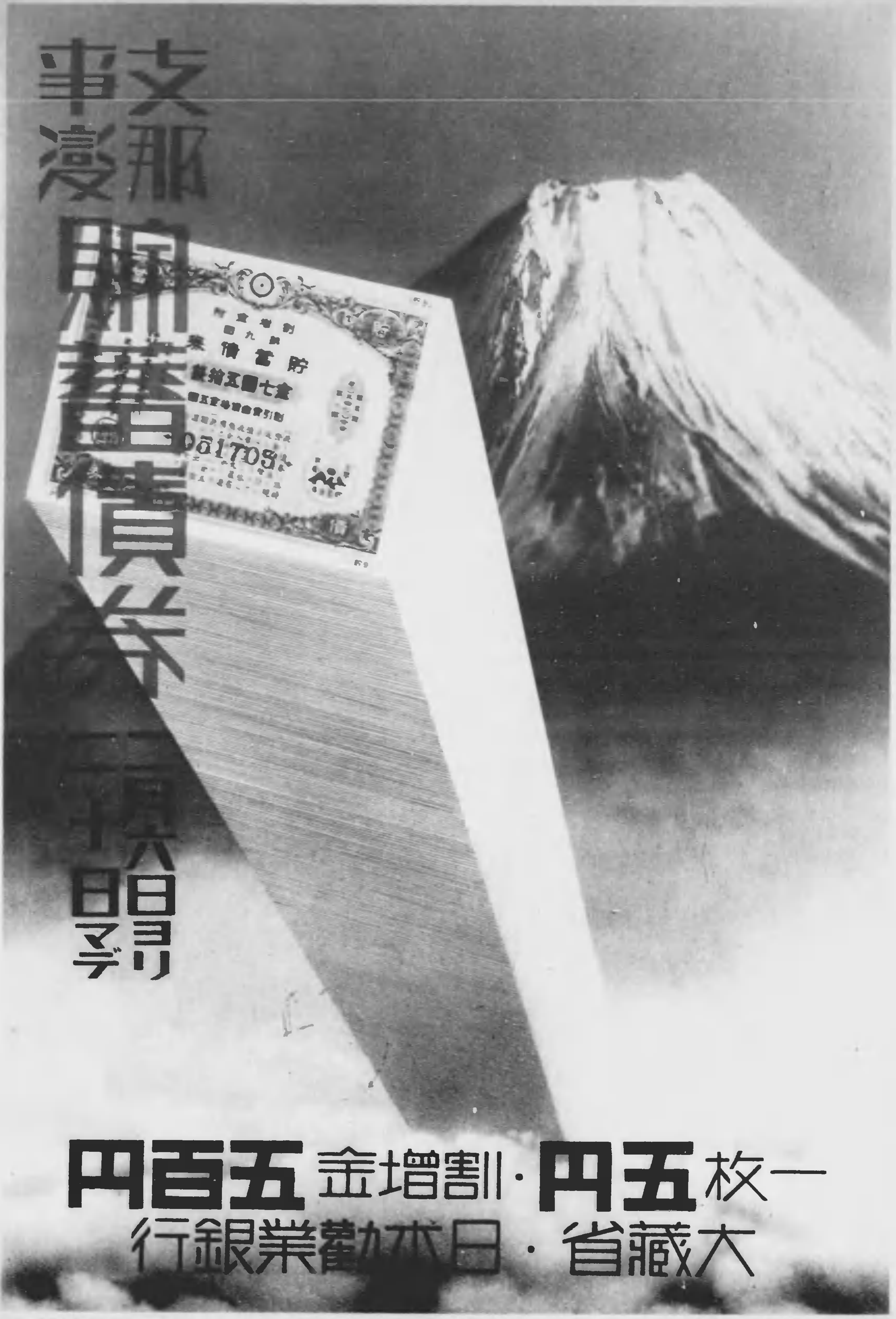
定價
一部十錢
半ケ年（前金）二圓四十錢
一ケ年（前金）四圓八十錢
―郵税不要―
（外國郵便に依る場合は一ケ年九圓十二錢）
半ケ年分未滿配達御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい

申込所
内閣印刷局發行課
電話丸ノ内(23)三五一一―九
振替東京一九〇〇〇
全國各地官報販賣所
東京都書籍株式會社
各書店・驛賣店
各新聞販賣店
寫眞材料店

★表紙――スペイン北西の都市オヴイドもかつては有力な赤色人民戰線の根據地だつた。極左の勞働者はこの町のフランコ將軍支持者を[illegible]と罵り生身のまゝこの樽牢の囚人とした。小さい子供が小さくかゞんでやうやつと入れる程度の、今は[illegible]を語る遺物となつたこの樽に、當時、血を流し飲めず食へずに首をへし曲げられて悶死した數十人數百人のいたましいフランコ側の犠牲があつたのだ。

スペイン駐劄代理公使
撮影　高岡[illegible]一郎

寫眞週報　昭和十三年二月十二日　第三種郵便物認可　昭和十四年二月一日發行（每週一回水曜日發行）　第五十號


支那事變貯蓄債券
二月六日ヨリ
二月十日マデ
貯蓄債券
金七圓五拾錢
一枚五円・割増金五百円
大藏省・日本勸業銀行

内閣印刷局印刷發行

（本書の大さは國定規格A4・「週報」倍判）